



生誕100年 梅原猛

チンコロ博2025を開催しました

本のちから(12)『ウツレと冬の森』

新着資料紹介

山内写真館資料写真展 昭和の十日町

ジェンダーについて考える ～国際女性デーによせて～

3月8日は国際女性デー(International Women's Day)です。1914年3月8日頃に欧州諸国で女性が戦争に反対したり、他の活動家との連帯を表明したりするための集会を開いたことに由来し、女性の地位向上をめざして、1975年に国連により定められました(註1)。国際女性デーにあわせて、多くの国で企業やメディアがイベントやキャンペーンを実施しています。

世界経済フォーラムが2006年から発表しているジェンダーギャップは、政治、行政、教育、経済の四分野における男女の違いにより生じる格差を表すデータで、格差が小さいほど上位とされます。国別ではアイスランドが2023年も2024年も1位となり、日本は2023年125位(G7最下位)、2024年118位にとどまっています。日本がこれほど下位なのは政治と経済の両分野での遅れが原因です。都道府県別に30の指標について出されたデータを見てみると、新潟県は女性の4年制大学進学率が41位と低い一方で、国会議員の男女比では全国2位となっています。共働き夫婦の家事育児時間の男女比は男性63分に対して女性244分でありながら、全国1位というのも驚きです(註2)。1位のアイスランドでは1980年、ヴィグディス・フィンボガドッティルさんが世界ではじめて女性として大統領に就任しました。その少し前に起きた「女性の休日」と呼ばれるデモによって女性が男性と同じように権利と機会を与えられるべきだという機運が高まっていた中で、立候補だったのです。選挙中や当選後間もなくは批判的な声もありましたが16年間の職務を全うした頃には、「大統領は女性がする仕事だと思っていた」と言った子どもがいたそうです(註3)。

文学の世界においても、女性の人生に立ちあがる困難と差別を描いた『82年生まれ、キム・ジョン』が、韓国のみならず日本を含めた世界中の女性に支持されたのは記憶に新しいのではないのでしょうか。韓国では未だに進学や就職において女性には不利なことが多く、主人公のジョンもやっと手にした広告代理店の仕事を出産によって辞めざるを得なくなります。記者の斎藤氏によると、顔のない女性が描かれた表紙同様に作中にもジョンの外見描写がほとんどないのは、「彼女が経験した女性としての失望や悲しみは個性や性格のせいではなく、社会システムに起因するものだ」ということを訴えるため

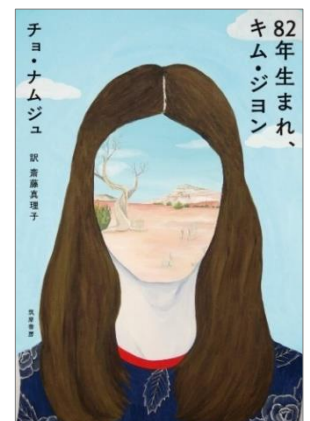
だ」と述べています(註4)。

ただ、今日では、ジェンダーは、生物学的な男女二分法ではなく社会的・文化的につくられる性を指します。2030年までに達成をめざす世界目標であるSDGsには「ジェンダー平等を実現しよう」という項目があり、多様な性のあり方に対する認知度は広がりを見せています(註5)。子どもたちに向けて作られた絵本の中にもジェンダーがテーマとして描かれ、これまでの画一的な男女の役割にとらわれない作品が多く出版されています。『ジュリアンはマーメイド』もその一冊。プールの帰りに見かけたマーメイド姿のお姉さんたちにすっかり魅了された少年、ジュリアンはカーテンを身にまとった人魚の扮装をします。それを見たおばあちゃんは、咎めるでもなく、彼女のネックレスを貸し、彼をその姿のままパレードに連れ出すのです。声高に差別や偏見を訴えるのではなく、美しい絵と最小限の文章で自分らしく生きることのすばらしさを表現しています。

他にも図書館にはジェンダーについて知るきっかけになる資料がたくさんあります。この機会に是非手に取ってみてください。(村山)



『ジュリアンはマーメイド』ジェシカ・ラブ/作、横山和江/訳、サウザンブックス社、2020 Eラ



『82年生まれ、キム・ジョン』チョ・ナムジュ/著、斎藤真理子/訳、筑摩書房、2018 929チ

〈註〉

1. 「国際女性の日(3月8日)制定に至る歴史は」(国際連合広報センターHP)
2. 『データから読む都道府県別ジェンダー・ギャップ あなたのまちの男女平等度は?』共同通信社会部ジェンダー取材班/編、共同通信社/編、岩波書店 367デ
3. 『世界ではじめての女性大統領のはなし』ウラン・フリーゲンリング/作、朱位昌併/訳、平凡社 Eラ
4. 『韓国文学の中心にあるもの』斎藤真理子/著、イースト・プレス 929サ
5. 『10代のうちに考えておきたいジェンダーの話』堀内かおる/著、岩波書店 367ホ

編集・発行/十日町情報館・NPO法人ららぶフォーラム

〒948-0072 十日町市西本町2丁目1番地1 TEL/025-750-5100 FAX/025-750-5103
「ららぶフォーラム」は、十日町情報館と図書館分室の図書館サービス業務を
受託している市民による非営利団体です。2014年2月にNPO法人となりました。



ホームページ



Facebook

おまちしています!



3月のテーマ図書

■がんばりスイッチ オフ

3月は「新潟県自殺対策強化月間」です

3月は卒業、就職、転職など環境の変化が多く、不安やストレスなどを感じやすい季節です。ときには“がんばりスイッチ”をオフにして、心身ともにリフレッシュしてみませんか？ 心が安らぐような本を集めています。場所は2階カウンター正面です。



■生誕100年 梅原猛

十日町市博物館の名誉館長も務めた、哲学者、評論家の梅原猛（うめはら・たけし）が生まれて100年が経ちます。梅原猛は1925（大正14）年宮城県仙台市生まれ。愛知県知多郡育ち。戦時中、1944（昭和19）年夏から名古屋の三菱重工の工場で勤労奉仕を行います。空襲で死者が続出するなか、「自分がこの戦争で死ぬのはほぼ確実だ」と考えて哲学書や宗教書を読み漁り、「死の理由」を探すようになりました。1948（同23）年、京都帝国大学文学部哲学科を卒業。

縄文時代から近代までを視野に収め、文学・歴史・宗教等を含めて日本文化の深層を解明しようとする研究は“梅原日本学”と呼ばれ、独特の歴史研究書を多数著しています。著書に『地獄の思想』（中央公論新社）、『隠された十字架—法隆寺論—』、『水底の歌 柿本人麿論』（以上、新潮社）、『日本の霊性—越後・佐渡を歩く—』（佼成出版社、のちに新潮文庫）など多数。

1999（平成11）年、文化勲章を受章。同年から2010（同22）まで十日町市博物館の名誉館長も務めました。2000（同12）年7月8日、十日町市民会館で笹山遺跡出土品・国宝指定1周年を記念した「縄文文明の意味」と題した梅原十日町市博物館名誉館長の講演会が行われ、600人を超える人々が集まりました。

梅原猛の生誕100年記念コーナーは、2階新着コーナーのとなりです。



■児童向け

お！ともだち

『ともだちともる』など、友だちがテーマの本を紹介します。

ひろいせかいへ とびだそう

『絵で旅する国境』、『世界の納豆をめぐる探検』など、世界を知ることができる本を紹介します。



■一般向け

新生活応援

『世界—ラクチンな栄養ごはん』、『山の上の家事学校』など、新生活を応援する本を紹介します。

2024年度文学賞受賞作

『笑う森』、『フェイク・マッスル』など、2024年度の文学賞受賞作を中心に紹介します。



第76回十日町雪まつり企画

チンコロ博2025 開催しました！

第76回十日町雪まつりの協賛企画として、2月15日から23日まで、「チンコロ博2025」を開催しました。

市内でチンコロを作られている方々による、伝統的なチンコロからオリジナリティあふれるチンコロまで、さまざまな作品が一堂に会しました。会場では「かわいいね！」などといった声がさかんに聞こえていました。



スタッフによる日々の声をお伝えします

ねえ、きいて その54

一人旅に出るのが楽しみです。

今年度一番の長旅では、大阪→和歌山→三重→奈良→京都→長野の二府四県を駆け回りました。夜行バス移動2回に、滝巡り2か所（和歌山県・那智の滝、三重県・赤目四十八滝）と、自分の歳や体力を考えない旅程にヘトヘトになりましたが、清々しい自然や荘厳な神社仏閣に、心身が整ったような気がしました。

印象的だったのが和歌山の海です。列車の窓から見たまっすぐな浜辺がとても綺麗で、立ち寄ってみたいくなりました。スマホで調べると、降りた駅から徒歩30分の表示。この程度なら行けるなど出発したら、まさかの上り坂でした。思わぬトラップに苦笑しつつ辿り着いた浜辺は、見渡す限り誰もいません。広い海を独り占めしながら、しばらく波を眺めていました。

リフレッシュの方法は人それぞれ。私はやっぱり旅ですね。次はどこに行こうかと、情報館の『るるぶ』をチェックする日々です。（関谷）





本のちから(12)

～北欧からの贈り物～『ウツレと冬の森』エルサ・ベスコフ／さく・え、小野寺百合子／やく、らくだ出版

6歳の誕生日にお父さんからスキーをもらったウツレ。待ちに待った雪が降り、ウツレはスキーをはいて森のなかへと滑っていきました。森のなかはなんと美しいのでしょうか。まるで冬の王様が住む魔法のお城のようです。そこでウツレは、白霜じいさんや冬王さま、そしてクリスマスの準備のために忙しく働くおじいさんやおばあさんや、たくさんの子どもたちに出会います。

ウツレが見た森のなかの世界は、真っ白な雪に覆われた、神秘的で美しい十日町の風景と重なります。冬王さまがいなくなると、雪どけばあさんや春の王女さまが来て季節は春になるのです。季節が巡る裏側には、こんな素敵な物語があるのかもしれないと思わせてくれる1冊です。

自然は思い通りにはいきません。だからこそ、人は大いなる自然に畏敬の念を抱き、厳しさと恵みに

子ども読書活動推進コーディネーター 林 篤子

感謝をしながら日々を生きていくのだということを感じさせてくれます。子ども時代に出会ってほしいベスコフの名作絵本です。忙しい日々を送る大人にもぜひお読みいただきたいです。

●エルサ・ベスコフ(1874-1953)について

スウェーデンを代表する絵本作家。鋭い観察眼で子どもたちを見つめ、山や森、湖水や川を愛し、草木や動物にも細やかな愛情を示しました。「時代がどう変わろうと、人種や言葉がどう異なろうと、エルサ・ベスコフの作品は常に人の心を捉えずにはおかぬ」と、『ウツレと冬の森』の訳者小野寺百合子さんはおっしゃっています。スウェーデン人家庭の子ども部屋の本棚には、必ずエルサ・ベスコフの本が何冊か入っているそうです。

★情報館1階「子ども読書推進コーディネーターの本棚」では、長く読みつがれている名作を揃えています。



『地球博物学大図鑑 新訂版』

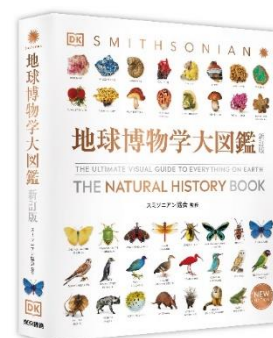
スミソニアン協会／監修 東京書籍(参考図書 R460チ)

全世界で75万部のベストセラー図鑑の新訂版が12年ぶりに刊行されました。最新の研究と学説を取り入れ、500種類以上の鉱物、5000種以上の生物を6000点以上の写真で図解しています。新種の画像もふくめ、現在入手できる図鑑としては、世界最大規模のビジュアルガイドといえるでしょう。

日本語版監修は、国立科学博物館、茨城県自然博物館、京都大学総合博物館、九州大学総合博物館、京都大学、山口大学のそれぞれの第一線の専門家が担当し、最新の内容にアップデート。巻末には、重要な自然史用語を集めた用語集と、和名索引・学名索引の両方を掲載しています。

私のおすすめポイントは、見開きの特集ページです。クローズアップ写真で細部まで見せながら、詳細な解説もしています。思いのほか鋭いオウサマペンギンの目に驚きました。夢中になってながめてしまいます。世界に名高いスミソニアン協会監修の究極の一冊をお楽しみください。

(小堺)



スタッフのおすすめ本(小堺)

新着資料紹介1月21日～2月20日分

【一般図書】

- 『書庫をあるく』南陀楼綾繁／著 皓星社(総記010ナ)
- 『家系図をつくる。』永峰英太郎／著 自由国民社(歴史288ナ)
- 『今さら聞けない防災の超基本』永田宏和／監修 朝日新聞出版(松之山 369イ)
- 『やる気1%やせごはん』まるみキッチン／著 KADOKAWA(水沢 596マ)
- 『コンビニ全史』中村直文／著 日経BP日本経済新聞出版(産業 673ナ)
- 『教養としてのジャズ』村井康司／監修 世界文化社(ジャズ 764キ)
- 『京屋の女房』梶よう子／著 潮出版社(松代 913.6カ)
- 『蕎麦打ち万太郎』原宏一／著 祥伝社(中里 913.6ハ)
- 『老人初心者の青春』阿川佐和子／著 中央公論新社(シニア 914.6ア)
- 『TOUCH/タッチ』オラフ・オラフソン／著 早川書房(外文 933オ)

【児童図書】

- 『科学でさぐる日本人の図鑑』秋道智彌／監修 文研出版(児童一般 210カ)
- 『わらって、考える！イグ・ノーベル賞ずかん』古澤輝由／監修 ほるぷ出版(児童一般 377ワ)
- 『あなただけの物語のために』あさのあつこ／著 筑摩書房(ティーンズ 901ア)
- 『魔女だったかもしれないわたし キーディの物語』エル・マクニコル／著 PHP研究所(児童外文 933マ)
- 『シロナガスクジラ』大片忠明／え 福音館書店(絵本 Eオ)
- 『わんぱくだんのおおかみもり』末崎茂樹／絵 ひさかたチャイルド(川西児童 Eス)
- 『ひろい海にぼくたちは生きている』長倉洋海／作 アリス館(絵本 Eナ)
- 『キツネのがみや』マツゾエヒロキ／さく・え 文芸社(松代児童 Eマ)

【地域資料】

- 『下條村労働組合史(現：下組労働組合の歴史)』南雲秀彦／編 下条地区振興会(地域・下条 T366ゲ)

十日町市博物館×「森の学校」キョロロ×十日町情報館 連携企画 第16回山内写真館資料写真展 昭和の十日町 山内与喜男×駒形さとし 二人展Ⅱ

町場の暮らしを記録し続けた山内与喜男。農村の暮らしや子どもを撮影し、妻の民俗研究の草分けとなった駒形さとし。2人の写真をとおり、昭和30年代から昭和50年代の「雪国の暮らし」と「子どもたちの姿」をご覧ください。



日時／3月8日(土)～23日(日)
※10日(月)は休館日
午前9時～午後7時

会場／十日町情報館 2階ギャラリー 入場料／無料

【同時開催】

「森の学校」キョロロ連携企画展

「学芸員・研究員が紹介したくてしかたがないスノウリッチ※とおかまち」

子どもに伝えたい十日町市の自然や文化の魅力を学芸員・研究員が分かりやすくご紹介。関連するテーマを実際に体験する子どもたちの様子も写真でご紹介します。

十日町情報館・関連図書コーナー

雪国の暮らしや動植物、雪に関する図書を展示します。

【令和6年度 情報館主催 パソコン講習】 小学生必見！

プログラミング学習講座

プログラミングソフト「スクラッチ」を使用します。

日時／3月22日(土)・23日(日)
午前9時30分～11時30分

対象／小学4年生～6年生

受講料／1,000円

会場／情報館1階 コンピュータ研修室

定員／先着15人

申込み／専用チラシの申込用紙に記入してお持ちください。電話・FAXでもお申込みできます。



閉架書庫公開

3月16日(日)

午後2時～5時

貴重な資料、傷みやすい資料、利用が少なくなった資料などを保管している閉架書庫(へいかしょこ)を公開します。

申込みは当日1階カウンターでお願いします。



小千谷市ひと・まち・文化共創拠点

「ホントカ。」

十日町市民も利用登録をすることができます

◇登録方法

利用登録条件を確認できるもの(運転免許証、マイナンバーカード、社員証、学生証など)をお持ちのうえ、「ホントカ。」で登録手続きをお願いします。

小千谷市ひと・まち・文化共創拠点「ホントカ。」

●所在地／小千谷市本町1-13-35

●開館時間／午前9時～午後10時

●休館日／第2・第4火曜日、年末年始(12/29～1/3)

●電話／0258-82-2724

※小千谷市民も十日町情報館の利用登録をすることができます。詳しくは各施設のホームページ等でご確認ください。

3月のおはなし会

◆情報館

1日(土)・8日(土)・29日(土)

／おはなしぴよぴよ(乳幼児)

15日(土)／読み聞かせの会 どんぐり
(幼児～小学校低学年)

22日(土)／おはなし「たまてばこ」
(乳幼児)



◆川西分室

15日(土)／おはなしの会「ふきのとう」

(乳幼児～小学校3年生くらい)



◆松代分室

8日(土)／おはなしたんぽぽ(幼児～小学校低学年)

その他の催し

●嶺明会書道展

日時／3月26日(水)～31日(月)
午前9時～午後7時

※31日は午後4時まで

会場／2階ギャラリー 入場料／無料



資料保護のお願い

本やCD・DVDなどは室内と屋外の温度差により結露し、故障や劣化につながるおそれがあります。また雨や雪で濡れた本は、利用ができなくなる場合もあります。屋外での持ち運びには、バックや袋に入れるなどの保護をお願いします。

3月の開館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

開館時間・休館日

開館時間 午前9時～午後7時

休館日 第2・第4月曜日(当分の間)

特別整理期間、年末年始(12/29～1/3)

十日町情報館

〒948-0072 西本町二丁目1-1

電話／025-750-5100 FAX／025-750-5103